

# ゲノム医療実現へ連携

## 神戸アイセンター病院

## シスメックス

医療用検査機器メーカーのシスメックス(神戸市中央区)と神戸市立神戸アイセンター病院(同)は、患者の遺伝子を調べて病気を治療する「ゲノム医療」の実現に向けた包括連携契約を結んだ。両者が持つ知見を生かし、目の病気の原因遺伝子を特定できる検査態勢の確立を目指す。

がんや難病のゲノム医療について、国は早期診断の実現に向けた体制整備や治療法の開発を推進。遺伝性疾患を含む難病は、発症から診断確定までに時間を要する場合が多く、診断後も身近な医療機関で適切な医療が受診できる体制確保が求められる。

今回、主な対象となる遺伝性の「網膜色素変性症」は、遺伝子変異により網膜の光を感じる視細胞に異常が起これば、視力低下や視野が狭くなるといった症状が起これる。失明する場合もあり、国内の推定患者は約4万人。根本的な治療法はないが、欧米では遺伝子治療薬が承認されるなどの動きも出ているという。

## 目の難病、原因遺伝子特定目指す

同病院は、遺伝子情報に基づく最先端治療や患者の社会復帰支援を目指し、臨床研究を続けている。同社はがんゲノム医療で遺伝子変異を調べる検査システムを開発しており、眼科治療にも応用する。

今後、遺伝子診断のデータや遺伝子解析プログラムの開発ノウハウなど、双方の知見を活用。検査に使う試薬などを新たに開発し、患者個々の原因遺伝子を特定できる検査態勢の開発を目指す。最適な治療法の提案につなげるほか、ほかの眼科疾患にも適用していきたい考えだ。

(横田良平)

2020. 3. 7(土) 神戸新聞分

コロナウィルス禍前 (いや最中?) での話かもしれないが 兵庫にはたくさんのお話源があります。

試行錯誤の先に「より良き」生活を産み出すことができる。その礎を担ってほしい。